

# コロナ後の日本の観光のあり方とは

## ー日本における SDGs に貢献するホテル経営と利用客の行動ー

岡山学芸館高等学校 2年 渡邊 この葉

### 1. 研究目的

この研究は、宿泊施設の SDGs への取り組みの現状とその背景、および 2021 年における高校生の SDGs 達成（地球環境保護）に貢献する観光への意識について明らかにすることを目的とする。コロナ前は各国がインバウンドビジネスに熱狂し、日本を訪れる外国人も 2019 年には 3000 万人を突破した。一方で、旅行者の増加による自然環境や地域住民の生活に対する負荷が発生し、観光の負の側面も目立つようになっていた。コロナ禍収束後に、日本の観光業が、これまで以上に生み出す負荷や悪影響を最小化する形で回復することを達成するため、日本人がこれまで以上に SDGs に配慮した観光や宿泊施設に倫理的な価値を感じられるような啓発活動を進める上で参考となる研究を進めた。JTB 総合研究所の調査によると、SDGs 達成に貢献する旅行について、外国人は、「必要だと思う」が 96.7% とほぼ全員がその必要性を認識しているのに対し、日本人は 75.2% にとどまった。また、必要だと思う理由について、外国人は 73.7% が「社会問題や環境問題について知る、解決につなげたいから」だったのに対し、日本人は 39.4% であった。「子どもたちの未来に役立てたいから」は、日本人 50.4%、外国人 54.2% であった。さらに、日本人の 25% は、SDGs 達成に貢献する旅行への必要性を認識しておらず、その半数が、「観光は単純に楽しむものであるから」を理由としていた。SDGs に配慮した旅行の価格が通常の旅行価格よりも上昇することについて、約 9 割の外国人は許容する一方で、日本人は 7 割程度にとどまり、価格が高くなるなら利用しないという回答も少なくない。

### 2. 研究内容

観光客をいかにして獲得するか知恵を絞るホテルの立場、自分の価値観に基づき観光地や宿泊施設を選ぶ観光客の立場の双方の視点から研究を進めた。立地や経営環境の異なる 2 つのホテルの SDGs へ取材を通じて、SDGs への取り組みの現状とその背景を明らかにした。また、高校生への意識調査アンケートを通じて、SDGs 達成に貢献する観光への意識を調べた。

### 3. 研究方法

#### 3-1. S ホテル（倉敷市）での取材

S ホテルは、造船株式会社がコンビナートの外れに建てた迎賓館が前身のホテルである。現在も造船株式会社が運営しており、隣接する造船所で船舶が完成した際に 2~3 か月間、船会社の乗組員が船の設備の操作方法の研修を受けるために滞在する。現在はコンサルタント系の会社も経営に参画し、一般の宿泊者の増加にも力を入れている。親会社が造船会社であることから、一般の専門ホテルに比べれば経営の心配は少なく、宿泊客を意識した SDGs 対応への必要性は高くない。

取材すると、S ホテルはまだ SDGs への取り組みは本格的には進んでいないとのことだった。清掃やタオル交換が不要と申し出ると、1 回につき 1 本ミネラルウォーターをもらえるという取り組みはされていた。それ以上の取り組みとなると難しく、その背景には私たちの意識も影響しているようだ。ホテルの方にアメニティグッズを減らすことで SDGs の取り組みにもなるのではないかと質問をしたところ、それによって「あそこのホテルにはあったのに、このホテルにはない」と比べられてしまい、クレームや利用客の減少を招きかねないという問題があると話をされていた。他のホテルが置いているものは用意しておかなければいけないという、SDGs より経営面を優先せざるをえない現状があることが改めて確認できた。

しかし取材の中で SDGs を推進する 1 つの可能性も発見した。それは SNS でのコメントが S ホテルの経営方針に大きな影響を与えるということだ。経営側はホテルのサービス向上のため、利用者の声に非常に敏感で、迅速な対応につながることもよくあるそうだ。SNS を通じて SDGs に貢献するホテルに対する紹介などを広めていけば、SDGs に貢献することが経営的にもプラスになるという判断につながる事が考えられる。

#### 3-2. G ホテル（岡山市）での取材

G ホテルは、岡山駅前にある JR 西日本関連のシティホテルである。京都や大阪にも G グループのホテルがあり、コロナ前は海外からの観光客も多かった。G ホテルは、環境に配慮した取り組みについての情報を施設内またはウェブサイトなどで配信しており、環境問題に関心の高い利用者が G ホテルを選択することに繋がっている。コロナの影響で大きな打撃を受けつつ、地球環境保護への取り組みは継続、強化している。

G ホテルでは、2011 年から環境に配慮した取り組みを本格的に始めた。その内容は、地球温暖化防止（省エネ）、循環型社会形成の推進、地域・自然との共生など多岐にわたっている（表 1）。エネルギーと水の使用量を 2010 年と 2019 年で比較したところ、水は 30%、ガスは 40%、電気は 10%の削減効果がみられたという。アメニティグッズは、サービスの面から減らすのが難しいため、環境にやさしい素材を使用している。レストランで出す食事は地産地消のものにして、輸送による環境負荷を低減するなどの取り組みも行っている。地域に信頼されるホテルでありたい、地域の活動から持続可能な社会の発展に貢献していきたいという熱意が取材を通して感じられた。

表 1 G ホテルが行っている環境に配慮した取り組みの一部

地球温暖化防止（省エネ）	
省エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル館内の白熱照明(約 13,000 個)の内、約 9,000 個を LED 化</li> <li>・宴会場、レストラン未使用時の照明 OFF の徹底、客室低稼働時のフロア単位での売り止め</li> <li>・従業員スペース未使用時や離席時の PC モニター照明 OFF を徹底</li> </ul>
省資源の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・客室に節水型シャワーヘッド・節水装置の設置（スイト、改装部屋等を除く計 255 室）</li> <li>・客室及び従業員用トイレを節水型に変更 ・従業員スペースの水道蛇口に泡沫キャップや自動水</li> </ul>
循環型社会の構築	
再利用可能なアメニティの推進	詰め替え式のディスペンサーボトルやウォッシュャブルスリッパの導入
客室リネン交換制度	お客様協力型の取り組みとして、「連泊時のリネン交換を行わない」ことを標準とし、要望があった場合のみ交換を実施し、リネン洗濯時に利用する洗剤、重油等の削減に貢献
地域・自然との共生	
地域清掃活動への参加	月 2 回の定期的なホテル周辺清掃に加え、岡山商工会議所主催の「旭川一斉清掃」などへ毎年参加
ライトダウンキャンペーンへの参加	ライトダウンキャンペーンへの参加。岡山県主催「ライトダウンキャンペーン」へ参加し、キャンペーン期間中に館外ネオン等を消灯

外部だけでなく内部に対しても環境保護への取り組みは一貫している。社内誌で環境配慮事業を紹介していることに加えて、外部講師や出前授業などによる従業員向け環境研修を年に 1 回実施し、従業員の SDGs への意識を高めている。

G ホテルは、エコマーク「ホテル・旅館 Version2」を 2019 年 4 月 19 日に取得した。エコマークとは国際標準化機構の規格 ISO14024「タイプ I 環境ラベル制度」に基づく認定制度で、1989 年から日本環境協会が運営しており、環境への負荷が少ないなど、環境保全に役立つと認められた商品および施設に与えられるものである。

### 3-3. 高校生へのアンケート

今後のホテル業界の環境への取り組みや、環境に貢献する観光への啓発の方向性を探るため、私は岡山学芸館高等学校清秀高等部コースの生徒 86 名を対象に、SDGs を意識した観光に関するアンケートを実施した(表 2)。私の通う高校ではグローバル課題研究という授業を通じて SDGs について学ぶ機会があるため、一般の高校生よりも SDGs への認知は高い可能性がある。アンケートでは、本校生徒の SDGs や環境に貢献した宿泊についてどのような意識をもっているかを調査した。

表 2 高校生を対象に実施したアンケート項目

質問 1	学校のグローバルの授業で SDGs への興味・関心が高まっていますか。
質問 2	ホテル（宿泊施設等）を選ぶ時に、環境問題や SDGs に取り組んでいる所を選びたいと思いますか。
質問 3	ホテルのアメニティグッズの種類や量についてどう思いますか。
質問 4	質問 3 で「多い」と答えた人への質問です。アメニティグッズを減らすとしたら何が要らないと思いますか。

質問 1 に対して、SDGs について興味関心が高まっている生徒が 31 名(36%)、やや高まっている生徒が 21 名

(24.4%)と、全体の6割ほどが関心が高まっていると回答している(図1)。ホテルを選ぶときに環境問題やSDGsに取り組んでいるところを選びたいと思うかという質問2に対して、そう思うとややそう思うと答えた人が31名(36%)となり、そう思はないとややそう思はないと答えた人数の25名(29%)を上回った(図2)。SDGsへの関心の高さが観光における宿泊施設の選択に一定の影響を与えているのかもしれない。

ホテルのアメニティグッズの量をどう思うかという質問3については、「多い」と回答した人が11.6%だったのに対し、「ちょうどいい」と回答した人は88.4%とかなり多かった(図3)。実際には、使っていないアメニティグッズは相当あると思われるが、過剰ではない、あって当たり前のものであるという感覚の人が多くことに驚かされる結果となった。観光に非日常を期待し、贅沢慣れしている日本人の意識が明らかになったといえる。質問3で「多い」と回答した人を対象に、アメニティグッズを減らすとしたら何がいらなくなるか質問したところ、歯ブラシ・かみそり・くしなどが多く挙がっていた(表3)。浴衣やスリッパなど洗濯や消毒をすることで長い間使い回せるものは減らせなくても良く(浴衣などは旅行の雰囲気を楽しむという意味でもあった方が良く)、家から持っていける歯ブラシ、くし、カミソリなどは部屋に置かず、使いたい人が自動販売機などで買えるようにしたら、ゴミなどの量が減るのではないかという記述、自分で家から持って行くのが当たり前という意識に変えないといけないという記述もみられた。

図1 学校のグローバルの授業でSDGsへの関心・興味が高まっているか

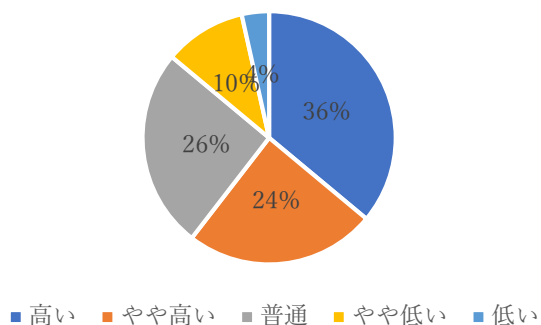


図2 ホテルを選ぶときに環境問題やSDGsに取り組んでいる所を選びたいと思うか

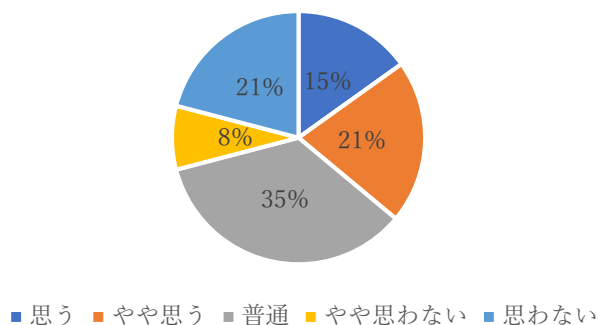


図3 ホテルのアメニティグッズの種類や量についてどう思うか

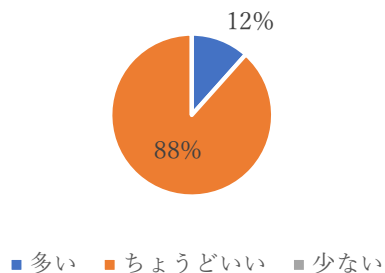


表3 質問4の回答内容例

歯ブラシ6、くし4、かみそり4、ヘアゴム2、ビール、お茶やお菓子、綿棒 など

#### 4. 考察

この研究によって、SDGsへ取り組みがまだ進んでいない宿泊施設でもSNSなどの利用者の声には敏感であることがわかった。また、Gホテルの例から、想像以上に多様な形で地球環境に貢献できることが確認できた。アンケート結果からは、観光と環境を関連づけて考える意識が高校生に希薄であることが浮き彫りとなった。私は今後、地球環境に貢献する観光に対する意識を高めたいと考えており、二つの案を提示する。

##### ① SDGs(地球環境保護)の教育を普及させる

幼稚園、小学校、中学校、高校において、児童生徒の発達に応じて、段階的にSDGsの教育を行う。幼稚園ではSDGsの17項目に触れられる簡単なゲームを1か月に1回ほど実施。小学校では1週間に1回ほど授業として取り入れ、少し詳しく地球環境について学んでいく。中学、高校では課題研究に力を入れていき、主体的に理解を深めていく。これらの活動が有機的に関連づけられることが必要で、そのための教材作成や教材のプラットフォーム化などに携わってきたい。

##### ② SDGsを取り入れたエコナンバーワンコンテスト

海外のインフルエンサーはエコに取り組んで、それをSNSなどを通じて発信し、世界中の多くの人と取り組

みを共有している。日本でも、SNSを通じたSDGs（地球環境保護）への共感、盛り上がり、日本人のSDGsへの意識を高め、観光業界のあり方を持続可能なものへと発展させることにつながるのではないか。エコナンバーワンコンテストとはあらゆるSNSにSDGsに取り組んでいる写真と、『取り組んだ内容』と#エコワンと記載して投稿するものだ。年代・世代別にナンバーワンを決め、それを共有していくことで、様々な気づきや共有が得られるものと思う。私の高校の生徒会に提案したところ、文化祭で導入してもらえることになった。その成果と課題を検証し、市・県そして全国へ広めていけるような活動にしていきたいと考えている。

## ◆参考文献

[論文]

1. 前田武彦（2019）「SDGsにおける持続可能な観光の可能性」『環境技術』Vol.48 No.5
2. 北村祐介, 柴原尚希, 稲葉敦（2021）「著者情報持続可能な観光に関する政策動向とLCA研究の方向性」『日本LCA学会誌』2021年17巻1号 p.8-15

[インターネット]

1. JTB総合研究所HP「SDGs達成に向けた旅行・観光分野の役割」  
<https://www.tourism.jp/tourism-database/column/2019/10/sdgs-tourism/>  
(最終閲覧日 2021年8月31日)
2. 観光経済新聞HP「サステイナブル・トラベル」のアンケート調査結果  
<https://www.kankokeizai.com/%E3%80%8C%E3%82%B5%E3%82%B9%E3%83%86%E3%82%A4%E3%83%8A%E3%83%96%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%99%E3%83%AB%E3%80%8D%E3%81%AE%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%83%88%E8%AA%BF%E6%9F%BB/>  
(最終閲覧日 2021年8月31日)
3. 日本政府環境局HP 報道発表資料「SDGsへの貢献と持続可能な観光（サステナブル・ツーリズム）の推進に向けて取組方針を策定しました！」  
[https://www.jnto.go.jp/jpn/news/press\\_releases/20210622.pdf](https://www.jnto.go.jp/jpn/news/press_releases/20210622.pdf)  
(最終閲覧日 2021年8月31日)
4. ホテルグランヴィア岡山HP「環境への取り組み」  
<https://granvia-oka.co.jp/release/#environmental-efforts>  
(最終閲覧日 2021年9月1日)